

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ジュニアクラブ彩心			
○保護者評価実施期間	R 7 年 8 月 1 日		～	R7年9月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	R 7 年 8 月 1 日		～	R7年9月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年9月11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い職員による多角的な療育・公認心理師、社会福祉士、音楽療法士、プロの演奏家など、福祉と音楽の専門家が連携し、一人ひとりの個性に合わせた療育を実践している。 ・音楽活動を中心に、学習支援、運動、ソーシャルスキルトレーニング（SST）など、多岐にわたるプログラムを提供している。	専門資格を持つ職員や専門家を配置し、定期的なカンファレンスを通じて、個々の子どもの特性に合わせた個別支援計画を作成・実施している。	講師を招いた専門研修の機会を増やすと共に、地域の関係機関（医療・教育等）との連携を強化し、より多角的な支援体制を構築する。
2	子どもの自己肯定感を高める多様な体験活動・音楽、運動、創作活動、動物とのふれあい、自然体験など、様々な体験活動の機会を設けている。 ・体や手先の訓練、コミュニケーション、感情のコントロールなど、社会生活に必要なスキルを総合的に支援している。	地域資源（公民館等）を活用し、季節ごとの行事や外出活動を計画的に実施。子どもたちが役割を持って達成感を味わえる場面や、他者と協力する機会を意図的に設けている。	子どもたちの興味・関心をさらに広げるため、新たな協力先を開拓し、より多様な体験活動の選択肢を提供する。また、活動の成果を発表する場（作品展、発表会など）を設け、自己肯定感をさらに高める。
3	状況に応じたきめ細やかな日課・平日（放課後）と学校休業日（土日祝・長期休暇）でそれぞれに合わせたスケジュールを組み、規則正しく、かつ充実した一日が送れるように工夫している。	写真やイラストを用いた視覚的なスケジュールを提示し、子どもが見通しを持って一日を過ごせるように配慮。一斉活動と自由時間、個別課題のバランスを取り、日々の始まりの会と終わりの会でスケジュールの確認と振り返りを行っている。	子ども自身が活動を選択したり、一日の予定を立てることに参加したりする機会を増やし、主体性を育む。また、保護者との連携を密にし、家庭での過ごし方も含めたトータルな視点でのスケジュール調整を検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会などを開催し、保護者同士が交流する機会を設ける支援ができていないという回答があります。	時間的・人的リソースの制約：日々の支援業務、個別支援計画の作成、記録業務などに追われ、保護者向けイベントの企画・運営にまで手が回らない可能性があります。また、開催時間によっては職員の時間外勤務が必要になるという課題もあります。 ・企画・運営のノウハウ不足：保護者がどのような交流を求めているかのニーズ把握が難しかったり、保護者同士の関係性に配慮しながら会を進行するノウハウが不足していたりする可能性があります。 ・参加へのハードル：保護者自身も仕事や家庭の事情で忙しく、決まった日時に集まるのが難しいケースが多くあります。また、「他の保護者と何を話せばいいかわからない」といった心理的なハードルを感じる方もいるかもしれません。 ・場所の制約：事業所のスペースが手狭で、多くの保護者が集まる場所を確保するのが難しいという物理的な課題も考えられます。	保護者のニーズを把握しながら、参加する目的が明確なイベントを企画します。 ・専門職によるミニ勉強会・ワークショップ：パンフレットにも記載のあった公認心理師や音楽療法士などの専門職が講師となり、「家庭でできる感覚遊び」「子どもの自己肯定感を育む関わり方」といったテーマで1時間程度の勉強会を開催します。共通のテーマに関心のある保護者が集まるため、自然な交流が生まれやすくなります。 ・親子参加型の季節イベント：夏祭り、ハロウィン、クリスマス会など、子どもが主役のイベントを企画します。親子と一緒に作業したり遊んだりする中で、保護者同士の自然な会話が生まれる機会を創出します。
2			
3			